



環境活動レポート

2018年度

(期間:2018年3月～2019年2月)



2019年4月19日

株式会社十八防災システム

【 目 次 】

1. 組織の概要	1
2. 実施体制	2
3. 環境方針	3
4. 環境目標	4
5. 環境活動計画	12
6. 環境目標の実績	13
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	17
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価、違反、訴訟等の有無	18
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	19

1. 組織の概要

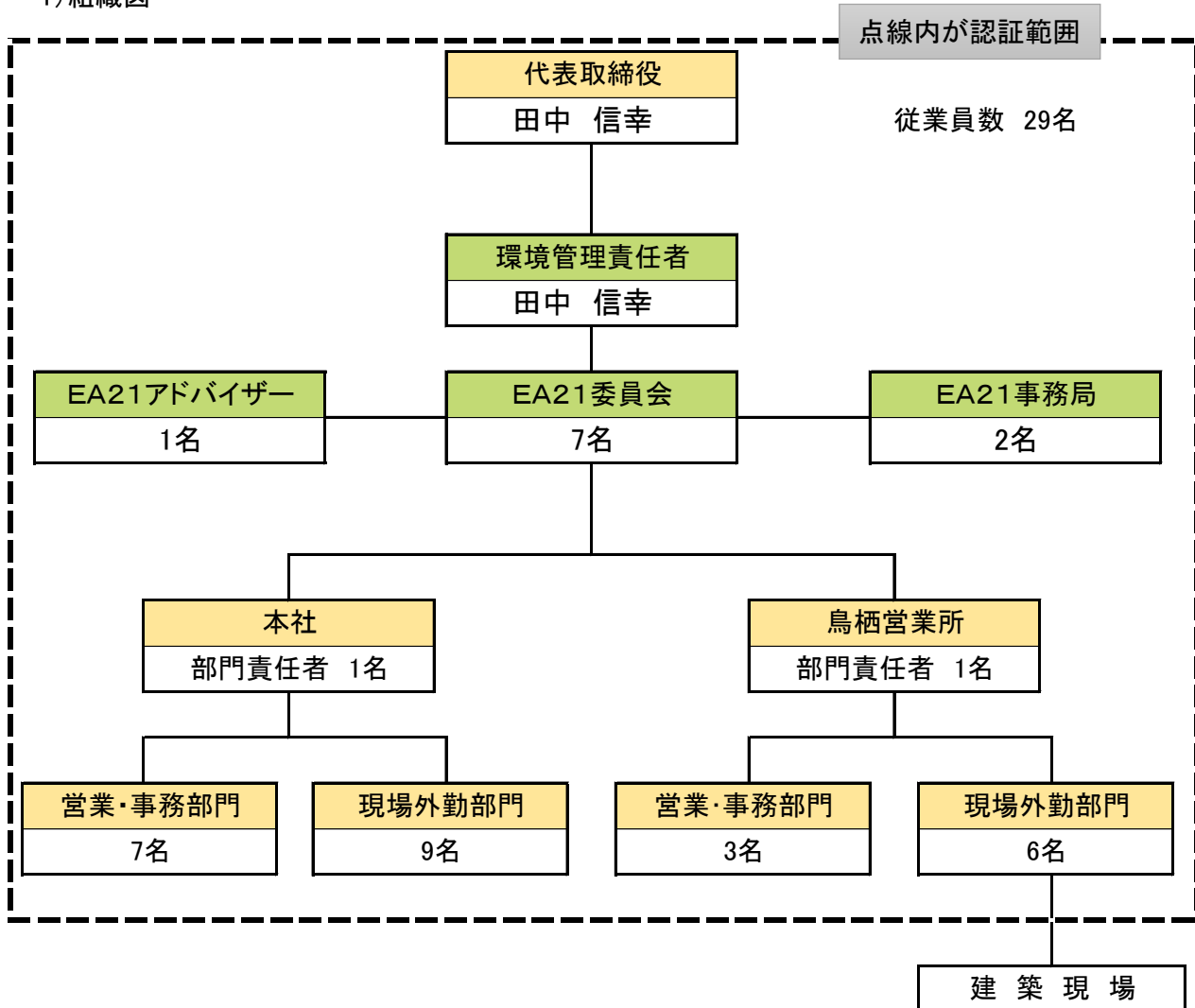
- 1) 事業所名及び代表者名 株式会社 十八防災システム
代表取締役 田中 信幸
- 2) 所在地 本社 : 〒830-0023 福岡県久留米市中央町12-5
鳥栖営業所: 〒841-0039 佐賀県鳥栖市土井町197-1
- 3) 環境管理責任者及び担当者 環境管理責任者: 代表取締役 田中 信幸
EA21事務局(本社):
石橋 知子 TEL 0942-32-3469/FAX 0942-32-3963
EA21事務局(鳥栖営業所):
山下 巳喜 TEL 0942-84-4869/FAX 0942-84-4235
- 4) 事業内容(全社) 消防施設工事業及び保守点検、電気通信工事業、
消防用品の販売業

建設業許可番号: 国土交通大臣許可(般-27)第23661号
有効期限: 平成27年8月10日から平成32年8月9日まで
建設業の種類 : 電気通信工事業、消防施設工事業
- 5) 事業規模(全社) 売上高 3億8千3百万円 (2018年度実績)
工事等の件数 3124件
従業員数 29名
事業年度 3月1日～翌年2月末日
- 6) 延べ床面積 本社 243㎡
鳥栖営業所 199㎡
- 7) 対象範囲(認証登録範囲) 対象事業所: 本社、鳥栖営業所
事業活動 : 消防施設工事業及び保守点検、
電気通信工事業、消防用品の販売業

全組織全活動が対象範囲です

2. 実施体制

1) 組織図



2) 役割分担表

関連部署・責任者	役割・責任・権限
代表取締役	全体の統括、環境方針の設定、環境への取り組みを実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
環境管理責任者	環境管理責任者として、実施体制の全般を掌握し、EA21委員会を開催すると共に、環境経営システムを構築・運用する また、環境方針以外の環境文書の制改定の責任者
EA21委員会	年2回開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を把握し、PDCAを回す
EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成、維持、管理
EA21アドバイザー	EA21の運用が円滑に進行するようアドバイスをする
部門責任者	各部の電力、水道、燃料の消費量の管理、削減を監督する また、廃棄物の適切な処分管理と排出量の管理を行う

環 境 方 針

株式会社十八防災システムは防災通信業務を通して社会に貢献できるよう毎日努力しています。

反面、私たちが取り扱う商品の中には処理を間違えると地球環境を悪くするものもあります。

当社キャッチフレーズの「提案します。安全と快適な暮らし」を推進するにあたり、全従業員が事業活動のあらゆる面で、地球環境に影響を与えていることを配慮して行動します。

- 1、環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。
 - (1) 紙の使用量削減とリサイクル
 - (2) 消費電力、ガソリン、軽油の使用量削減（CO₂削減）
 - (3) 廃棄物の分別を徹底し、再生利用に回す。
 - (4) 節水
- 2、環境関連法令を遵守します。
- 3、地域の清掃活動に取組みます。（毎月1回の活動）
- 4、資材の購入はグリーン購入適合品を推進します。
- 5、環境に配慮した販売・施工を推進します。
- 6、この環境方針は、教育や日常活動を通じて全従業員に周知徹底するとともに環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識、認識の向上を図ります。

平成22年3月25日 制定

平成27年4月18日 改定

株式会社 十八防災システム

代表取締役 **田中 信幸**

4. 環境目標

環境目標（全社）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
1	（削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	60,777	60,169 -1%	59,561 -2%	58,953 -3%
		電力使用量の削減	kWh	21,859	21,640 -1%	21,422 -2%	21,203 -3%
		ガソリン使用量の削減	L	19,286	19,092 -1%	18,901 -2%	18,707 -3%
		軽油使用量の削減	L	1,830	1,812 -1%	1,793 -2%	1,775 -3%
		都市ガス使用量の削減	m ³	33	33 -1%	32 -2%	32 -3%
2	廃棄物の排出量の削減 （最終処分量）	ton	0.2	0	0	0	
3	総排水量の削減	m ³	244	241 -1%	239 -2%	236 -3%	
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	283,664	280,827 -1%	277,991 -2%	275,154 -3%	
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	65%	66%	67%	68%
		建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	3	4	5	6
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100%	100%	100%
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

環境目標（本社）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
1	（削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	32,595	32,269 -1%	31,943 -2%	31,617 -3%
		電力使用量の削減	kWh	10,286	10,183 -1%	10,080 -2%	9,977 -3%
		ガソリン使用量の削減	L	11,754	11,636 -1%	11,519 -2%	11,401 -3%
		軽油使用量の削減	L	該当なし			
		都市ガス使用量の削減	m ³	33	33 -1%	32 -2%	32 -3%
2	廃棄物の排出量の削減 （最終処分量）	ton	該当なし				
3	総排水量の削減	m ³	157	155 -1%	154 -2%	152 -3%	
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	201,500	199,485 -1%	197,470 -2%	195,455 -3%	
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	71%	72%	73%	74%
		建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	該当なし			
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100%	100%	100%
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

環境目標（鳥栖営業所 事務所）

環境目標	単位	【基準値】	目標			
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
1 （削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	12,489	12,364 -1%	12,239 -2%	12,114 -3%
	電力使用量の削減	kWh	11,573	11,457 -1%	11,342 -2%	11,226 -3%
	ガソリン使用量の削減	L	773	765 -1%	758 -2%	750 -3%
	軽油使用量の削減	L	1,830	1,812 -1%	1,793 -2%	1,775 -3%
	都市ガス使用量の削減	m ³	該当なし			
2	廃棄物の排出量の削減 （最終処分量）	ton	該当なし			
3	総排水量の削減	m ³	87	86 -1%	85 -2%	84 -3%
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	82,164	81,342 -1%	80,521 -2%	79,699 -3%
5	グリーン購入 事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	53%	54%	55%	56%
	グリーン購入 建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	該当なし			
6	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	該当なし			
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

環境目標（鳥栖営業所 現場）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
1	(削減内訳)	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	15,693	15,536 -1%	15,379 -2%	15,222 -3%
		電力使用量の削減	kWh	該当なし			
		ガソリン使用量の削減	L	6,759	6,691 -1%	6,624 -2%	6,556 -3%
		軽油使用量の削減	L	該当なし			
		都市ガス使用量の削減	m ³	該当なし			
2	廃棄物の排出量の削減 (最終処分量)	ton	0.2	0	0	0	
3	総排水量の削減	m ³	該当なし				
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	該当なし				
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	該当なし			
		建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	3	4	5	6
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100%	100%	100%
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

4. 環境目標（新中期目標）

環境目標（全社）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
1	（削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	52,683	52,157 -1%	51,630 -2%	51,102 -3%
		電力使用量の削減	kWh	19,264	19,072 -1%	18,878 -2%	18,686 -3%
		ガソリン使用量の削減 （燃費の向上）	km/ℓ	13.90	14.04 +1%	14.18 +2%	14.32 +3%
2	廃棄物の排出量の削減 （最終処分量）	ton	0.3	0	0	0	
3	総排水量の削減	m ³	216	214 -1%	211 -2%	209 -3%	
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	235,500	233,145 -1%	230,790 -2%	228,435 -3%	
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	45.5%	46.5%	47.5	48.5
		建設資材のグリーン購入 推進(工事件数)	件	0	1	2	3
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100	100	100
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2018年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成30年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成30年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

環境目標（本社）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
1	（削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	29,422	29,128 -1%	28,834 -2%	28,539 -3%
		電力使用量の削減	kWh	10,634	10,528 -1%	10,421 -2%	10,315 -3%
		ガソリン使用量の削減 （燃費の向上）	km/ℓ	15.14	15.29 +1%	15.44 +2%	15.59 +3%
2	廃棄物の排出量の削減 （最終処分量）	ton	該当なし				
3	総排水量の削減	m ³	136	135 -1%	133 -2%	132 -3%	
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	198,000	196,020 -1%	194,040 -2%	192,060 -3%	
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	50%	51%	52%	53%
		建設資材のグリーン購入 推進(工事件数)	件	該当なし			
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100	100	100
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2018年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成30年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成30年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

環境目標（鳥栖営業所 事務所）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
1	（削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	11,121	11,010 -1%	10,899 -2%	10,787 -3%
		電力使用量の削減	kWh	8,630	8,544 -1%	8,457 -2%	8,371 -3%
		ガソリン使用量の削減 （燃費の向上）	km/ℓ	17.11	17.28 +1%	17.45 +2%	17.62 +3%
2	廃棄物の排出量の削減 （最終処分量）	ton	該当なし				
3	総排水量の削減	m3	80	79 -1%	78 -2%	77 -3%	
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	37,500	37,125 -1%	36,750 -2%	36,375 -3%	
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	41%	42%	43%	44%
		建設資材のグリーン購入 推進(工事件数)	件	該当なし			
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	該当なし			
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2018年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成30年度実排出係数0.463kg-CO2/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成30年度実排出係数0.463kg-CO2/kWhを使用し、新たに変更した

環境目標（鳥栖営業所 現場）

環境目標		単位	【基準値】	目標			
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
1	二酸化炭素排出量の削減 (削減内訳)	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	12,140	12,019 -1%	11,897 -2%	11,776 -3%
		電力使用量の削減	kWh	該当なし			
	ガソリン使用量の削減 (燃費の向上)	km/ℓ	10.46	10.56 +1%	10.67 +2%	10.77 +3%	
2	廃棄物の排出量の削減 (最終処分量)	ton	0.3	0	0	0	
3	総排水量の削減	m ³	該当なし				
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	該当なし				
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適 合品の割合 %	該当なし			
		建設資材のグリーン購入 推進(工事件数)	件	0	1	2	3
6	環境配慮商品の販売 推進	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適 合品の割合 %	100	100	100	
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	10	10	

- 1) 目標の削減率は、2018年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成30年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成30年度実排出係数0.463kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

5. 環境活動計画

2018年度 環境活動計画

取組み目標と取組み方法		スケジュール		責任者		
		2018年3月	2019年2月	本 社	鳥栖事務所	鳥栖現場
二酸化炭素排出量削減	電気使用量の削減(本社、鳥栖事務所:-3%) ① 不要な電気はこまめに消す。 ② 昼休み、退社時は必ず消灯する。 ③ エアコンの温度を設定(室温で冷房28℃暖房20℃)し、実行す	←→		本社:石橋 鳥栖事務所:松田		
	ガソリンの使用量の削減(本社、鳥栖事務所、鳥栖現場:-3%) ① アイドリングストップを実行する。 ② 急発進、急加速を行わない。 ③ タイヤの空気圧を月1回測定する。	←→		本社:甲斐 鳥栖事務所:林(忠) 鳥栖現場:濱尾(昭)		
	軽油の使用量の削減(鳥栖事務所:-3%) ① アイドリングストップを実行する。 ② 急発進、急加速を行わない。 ③ タイヤの空気圧を月1回に測定する。			/		
	都市ガスの使用量の削減(本社:-3%) ① 夏季の使用は控える。	←→		本社:石橋		
廃棄物排出量削減	廃棄物排出量の削減(鳥栖現場:最終処分量0) ① ゴミを廃棄する場合は必ず分別し排出する。(金属、電線、再生 ② マニフェストをもとに廃棄物の適正な処理を確認する。 ③ ダンボールは回収し、整理してリサイクルに回す。 ④ 弁当空等は分別して燃えるゴミを少なくする。	←→		鳥栖現場:濱尾(昭)		
総排水量削減	総排水量の削減(本社、鳥栖事務所:-3%) ① 洗車を行う場合、水を流したままにしない。 ② 花壇の散水は、二次水又は雨水の使用に努める。	←→		本社:石橋 鳥栖事務所:山下		
紙の使用量削減	紙の使用量の削減(本社、鳥栖事務所:-3%) ① 可能なものは両面印刷を実行する。 ② 社内で使用する用紙は必ず裏紙を使用する。 ③ 両面使用後の紙や使用済み図面の紙はリサイクルに出す。	←→		本社:石橋 鳥栖事務所:山下		
グリーン購入	グリーン購入の推進(本社:74%、鳥栖事務所:56%、鳥栖現場:6品目) ① 事務所で使用する事務用品等のグリーン購入を推進する。 ② 現場で使用する建設資材等のグリーン購入を推進する。	←→		本社:石橋 鳥栖事務所:山下 鳥栖現場:松田		
製品及びサービスに関する配慮	環境配慮商品の販売推進(本社、鳥栖現場:100%) ① 消火器を販売する際は、エコマーク適合品またはグリーン購入適合品の販売を推進する。	←→		本社:石橋		
地域の清掃	地域の清掃(本社、鳥栖事務所、鳥栖現場:年間10回) ① 年間10回、会社近隣の清掃を全社で行う。	←→		本社:甲斐 鳥栖事務所:木村 鳥栖現場:木村		

6. 環境目標の実績

実績（全社）

環境目標	単位	【基準値】	2018年度 (2018.3~2019.2)			
			2015年度	目標	実績	達成状況 (○△×判定)
1 （削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	60,777	58,953 -3%	53,539 -12%	○
	電力使用量の削減	kWh	21,859	21,203 -3%	19,264 -12%	○
	ガソリン使用量の削減	L	19,286	18,707 -3%	18,832 -2.4%	△
	軽油使用量の削減	L	1,830	1,775 -3%	-	-
	都市ガス使用量の削減	m ³	33	32 -3%	6 -82%	○
2	廃棄物の排出量の削減 (最終処分量)	ton	0.2	0	0.3	△
3	総排水量の削減	m ³	244	236 -3%	216 -11%	○
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	283,664	275,154 -3%	235,500 -17%	○
5	グリーン購入 事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	65%	68%	45%	×
	グリーン購入 建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	3	6	1	×
6	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100%	100	○
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	12	○

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

実績（本社）

環境目標	単位	【基準値】	2018年度 (2018.3~2019.2)			
			2015年度	目標	実績	達成状況 (○△×判定)
1 （削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	32,595	31,617 -3%	29,924 -8.2%	○
	電力使用量の削減	kWh	10,286	9,977 -3%	10,634 +3.4%	×
	ガソリン使用量の削減	L	11,754	11,401 -3%	10,552 -10%	○
	軽油使用量の削減	L	該当なし			
	都市ガス使用量の削減	m ³	33	32 -3%	6 -82%	○
2	廃棄物の排出量の削減 (最終処分量)	ton	該当なし			
3	総排水量の削減	m ³	157	152 -3%	136 -13%	○
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	201,500	195,455 -3%	198,000 -1.7%	△
5	グリーン購入 事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	71%	74%	50%	×
	グリーン購入 建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	該当なし			
6	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100%	100	○
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	12	○

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

実績（鳥栖営業所 事務所）

環境目標	単位	【基準値】	2018年度 (2018.3~2019.2)			
			2015年度	目標	実績	達成状況 (○△×判定)
1 （削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	12,489	12,114 -3%	11,475 -8.1%	○
	電力使用量の削減	kWh	11,573	11,226 -3%	8,630 -25%	○
	ガソリン使用量の削減	L	773	750 -3%	3,051 +295%	×
	軽油使用量の削減	L	1,830	1,775 -3%	—	—
	都市ガス使用量の削減	m ³	該当なし			
2	廃棄物の排出量の削減 (最終処分量)	ton	該当なし			
3	総排水量の削減	m ³	87	84 -3%	80 -8%	○
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	82,164	79,699 -3%	37,500 -54%	○
5	グリーン購入 事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	53%	56%	41%	×
	グリーン購入 建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	該当なし			
6	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	該当なし			
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	12	○

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO₂/kWhを使用し、新たに変更した

実績（鳥栖営業所 現場）

環境目標	単位	【基準値】	2018年度 (2018.3~2019.2)				
			2015年度	目標	実績	達成状況 (○△×判定)	
1 （削減内訳）	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	15,693	15,222 -3%	12,140 -23%	○	
	電力使用量の削減	kWh	該当なし				
	ガソリン使用量の削減	L	6,759	6,556 -3%	5,229 -23%	○	
	軽油使用量の削減	L	該当なし				
	都市ガス使用量の削減	m ³	該当なし				
2	廃棄物の排出量の削減 (最終処分量)	ton	0.2	0	0.3	△	
3	総排水量の削減	m ³	該当なし				
4	紙の使用量(購入量)の削減	枚(A4換算)	該当なし				
5	グリーン購入	事務用品のグリーン購入 推進(購入金額)	全体に占める適合品の割合 %	該当なし			
		建設資材のグリーン購入 推進(品目数)	品目	3	6	1	×
6	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	環境配慮商品の販売 推進(消火器販売割合)	全体に占める適合品の割合 %	100%	100%	100	○
7	地域の清掃(年間)	回数	10	10	12	○	

- 1) 目標の削減率は、2015年度実績に対する削減率で設定
- 2) 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実排出係数0.509kg-CO2/kWhを使用した
- 3) 当社は化学物質の使用はありません
- 4) 基準値の二酸化炭素排出係数も平成27年度実排出係数0.509kg-CO2/kWhを使用し、新たに変更した

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境目標項目	環境活動計画の取組結果・評価	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減 (電力使用量の削減) (ガソリン・軽油使用量の削減) (都市ガス使用量の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・本社では使用量が増加している。今年度も猛暑によるエアコンの使用率アップが原因と思われる。 ・鳥栖営業所は照明のLED化により大きく削減が出来ており、本社では目標が達成できた。 ・鳥栖の事務所の車両を軽油車からガソリン車へ更新したため、目標値よりもガソリンは大幅増加したが、本社及び現場は削減できている。 燃費で見ると17台中11台は目標達成出来た。 ・エコドライブは徹底出来ている。 ・夏場の使用をなくし、使用量を削減できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・残業削減に取り組み、電灯の使用量削減に努める ・エコドライブを継続する ・燃費実績集計を継続する ・使用量が少ない為、環境目標値からは除外するが引き続きムダな使用のないよう削減する
廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチックが出たため、最終処分量ゼロにはならなかった。 分別は徹底できているので、最低限の処分量にはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を継続する
総排水量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・本社、鳥栖営業所ともに節水が徹底されている。 洗車も拭き上げで行い水の使用を最小限にできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の取り組みを継続する
紙の使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・本社は点検件数の増加や、報告書の細分化で印刷枚数が増え、使用量が増加している。 ・鳥栖営業所は裏紙の再利用等で削減できた。 ・使用後のリサイクルも行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべくデータでのやりとりを行いペーパーレス化を推進する。 ・裏紙の利用、リサイクルは継続して行う
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品のグリーン購入については、本社・鳥栖ともに目標を達成できておらず、今までの購入品だけでなく新たなグリーン購入適合品を探す必要がある。 ・建設資材のグリーン購入については、昨年より減少し1品目にとどまった。 ・建設資材のグリーン購入品は使いづらさとコストが高いのでなかなか品目数を増やせていない。 目標値を見直しを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、グリーン購入適合品を購入する。 ・さらに使用できる商品がないか新たなものも検討する。 ・ペンやファイルなど特定の商品を決めコストに関わらずグリーン購入する。 ・品目数の目標値を見直す。
環境配慮商品の販売推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮商品の販売推進は、目標を達成できた。 本社・鳥栖営業所ともに、消火器については100%エコマーク付きの販売を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の取組を継続する。
地域の清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の10回以上達成できた。筑後川のボランティア清掃にも参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の取組を継続する。

8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

関連法規名	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (一般廃棄物の処理)	委託	適
	委託基準	適
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (産業廃棄物の処理)	処理基準	適
	保管基準	適
	委託	適
	委託基準	適
	排出者責任	適
	産業廃棄物管理票の交付	適
	産業廃棄物管理票の写しの保存期間	適
	産業廃棄物管理票に関する知事への報告	適
	産業廃棄物管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適
	建設工事に伴う廃棄物の処理に関する特例	適
	廃消火器等の適正処理	適
	投棄禁止	適
	焼却禁止	適
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	建設業を営む者の責務	適
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	自動車の所有者の責務	適
	使用済自動車の引渡義務	適
	再資源化預託金等の預託義務	適
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	管理者判断基準(簡易点検、実施記録の作成・保存)	該当なし
	第一種特定製品のフロン引渡し	該当なし
	回収依頼書、引渡証明書、委託確認書の授受	該当なし
	第一種特定製品廃棄者の当該費用負担	該当なし
	フロン類の放出禁止	該当なし
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	事業者及び消費者の責務	該当なし
	料金の請求	該当なし

当事業所に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反は過去3年間ありませんでした。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直しの結果

現状における環境への取組について

エコアクション21の取り組みを始めて10年目を迎えることが出来ました。
社員の理解も深まり、社内全体で取り組む姿勢も一層感じられるようになりました。
電力の使用量については今期も昨年同様、鳥栖営業所の照明LED化の影響が大きく、大幅に使用量の削減ができました。
車輛の方も軽油車がなくなり、ガソリン車になり使用量は増えたものの、エコ運転は浸透しています。
燃費向上にむけた取り組みを引き続き出来ればと思います。

今後の環境への取組について

次年度は本社移転に伴い、太陽光パネルの設置、照明もLEDに代わり大幅な使用量削減が期待できます
ガソリンの使用量については、今後は目標設定値を燃費で設定し取り組んでいく事になり、こちらも目標達成が期待されます。
グリーン購入についても会議の結果、事務用品についてはペンやファイルなど特定の商品を決めてコストに関わらず、グリーン購入する事になりました。
建設資材については、使いづらさとコストが高い事でここ数年は目標を達成できていなかった為、再度、目標値を検討した結果、今後は特定の品目を決め、工物件数での目標値で取り組むことになりました。

見直しの結果

今回の評価と見直しの結果、ガソリン使用量の燃費目標への変更を行い、都市ガスは使用量が少ないため環境目標からは除外します。その他の環境方針、環境活動計画、環境経営システムは変更せず、引き続き取り組むこととします。

2019年 4月 19日

株式会社十八防災システム
代表取締役 田中 信幸